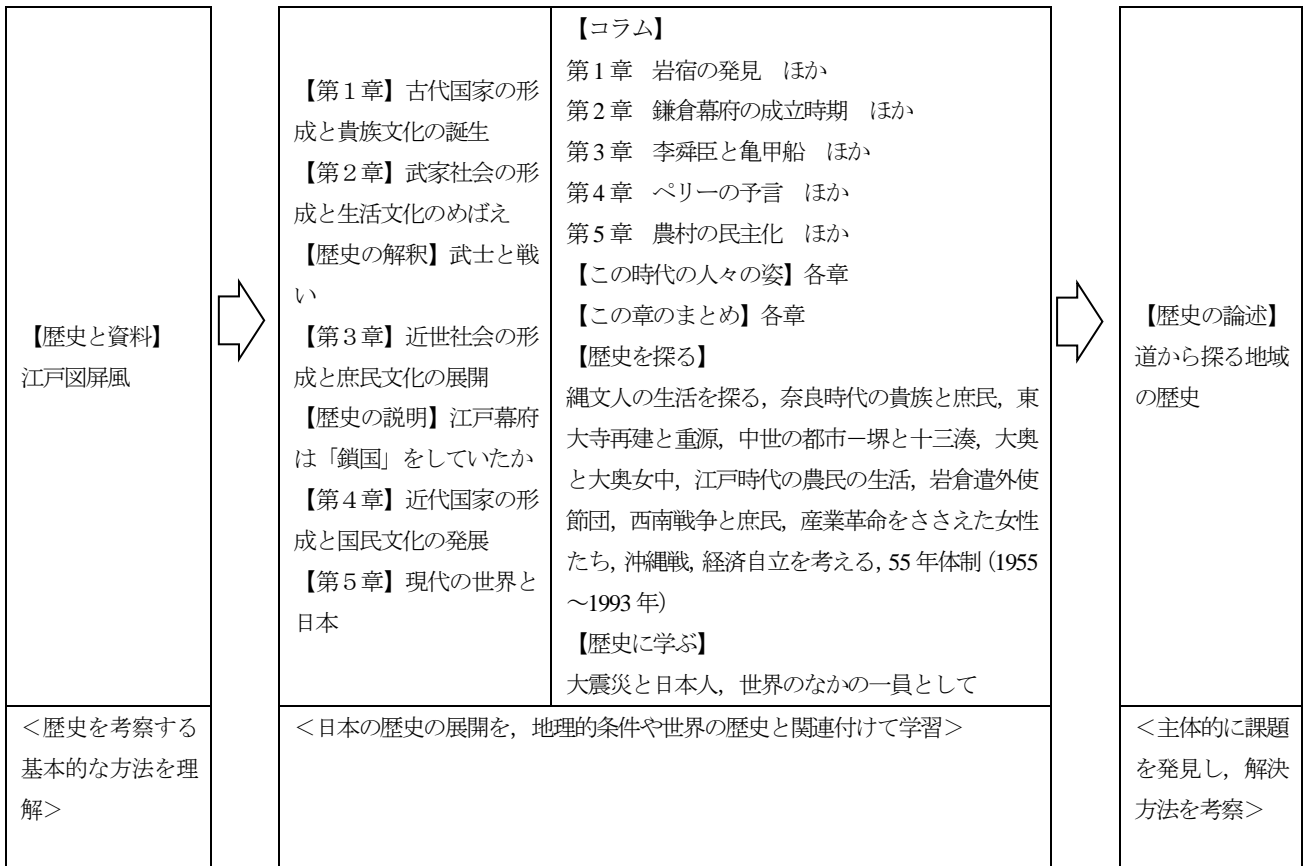


日本史総合	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	地歴科 第3 学年 1 組
使用教科書，副教材等	東京書籍「新選日本史B」（日B303） 帝国書院「図説日本史通覧」	

1 学習の到達目標

- ①我が国の歴史の展開を，諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて，我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ③歴史的思考力をつちかい，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
- ④センター試験や私立大学等の入試に備えた学力の向上を目指す。

2 科目の特色



<p>歴史探求の方法</p> <p>【歴史の解釈】 諸資料を活用して，歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈する。 【歴史の説明】 複数の歴史的解釈について，それぞれの根拠や論理をふまえて説明させる。</p>
--

3 学習の計画

学期	月	指導内容	配当時間	備考
1 学期	4 月	1章古代国家の形成と貴族文化の誕生 ①更新世の日本②縄文文化③弥生文化と小国の形成 ⑤飛鳥の朝廷と文化⑥律令国家の成立と白鳳文化	8	
	5 月	⑦平城京と天平文化⑧平安遷都と唐風文化⑨貴族社会と 摂関政治⑩国風文化⑪院政と荘園⑫平氏政権の登場 2章武家社会の形成と生活部下のめばえ ①鎌倉幕府の誕生	9	
	6 月	②執権による政治③元寇と社会の変貌④鎌倉仏教と 文化⑤室町幕府の創設⑥倭寇と東アジアの交易 ⑦下克上の社会と戦国大名⑧室町文化	11	
	7 月	3章近世社会の形成と庶民文化の展開 ①ヨーロッパ文化との接触②織豊政権による全国統一 ③桃山文化④江戸幕府と大名・朝廷⑤身分制度の確立 ⑥キリスト教禁止と鎖国⑦幕府政治の進展⑧経済と産業の発達	7	
	9 月	⑨学問の新傾向と元禄文化⑩幕藩体制の動揺と政治改革 ⑪幕藩体制の危機⑫新しい学問の形成と化政文化 4章近代国家の形成と国民文化の発展 ①開国②幕府の滅亡③統一国家の形成④近代国家を目指して	10	
	10 月	⑤殖産興業と文明開化⑥明治初期の国際情勢⑦政府専制への 批判⑧立憲政治の成立⑨新しい文化の形成⑩日清戦争と 東アジアの変貌⑪「中国分割」と日露戦争	11	
2 学期	11 月	⑫工業化と資本主義の発達⑬近代文化の形成⑭第一次世界 大戦と日本⑮新たな国際秩序と日本への影響⑯大衆社会の 形成⑰揺れ動く経済と中国侵略の本格化⑱日中戦争と国内 体制の改編⑲太平洋戦争	12	
	12 月	5章現代の世界と日本 ①占領と日本国憲法②冷戦の開始と経済復興③国際社会への 復帰と対米協調④経済の高度成長⑤1970年代の国際社会と 日本⑥安定成長への転換⑦激動する世界と日本⑧停滞する 日本経済と成長するアジア	6	
	1 月	問題演習	7	
3 学期	2 月	問題演習	3	

4 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

(2) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	○歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意味に気づき、関心をもって主体的に学習に取り組んでいるか。 ○現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	○日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、さまざまな理解・立場があることをふまえて、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、適切な方法を選んで効果的に表現しているか。
資料活用の技能	○日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。
知識・理解	○基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解しているか。 ○日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解しているか。

(3) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。

イ 「歴史の解釈」「歴史の説明」をはじめとする課題学習の際のレポートは、評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「歴史の論述」を参考にしてください。

ウ 学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。

エ 自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。